

## 国道342号の祭時大橋の仮橋が開通

一関総合支局土木部



国道342号祭時大橋の橋梁災害復旧に伴い、急ピッチで進めてきた仮設道路（延長約558m、うち仮橋約94m）は、8月21日に着手以来3ヶ月余で完成し、11月30日（日）正午から供用開始しました。

この開通により、祭時地区などの8世帯22名への避難勧告が解除となり、避難住民の一部が約5ヶ月半ぶりに自宅に戻ることができました。

県では、来年の春から仮橋の約50m北側で、新橋の建設に着手をすることとしており、今後も工事の安全に万全を期しながら、地域の復興に取り組んでいきます。

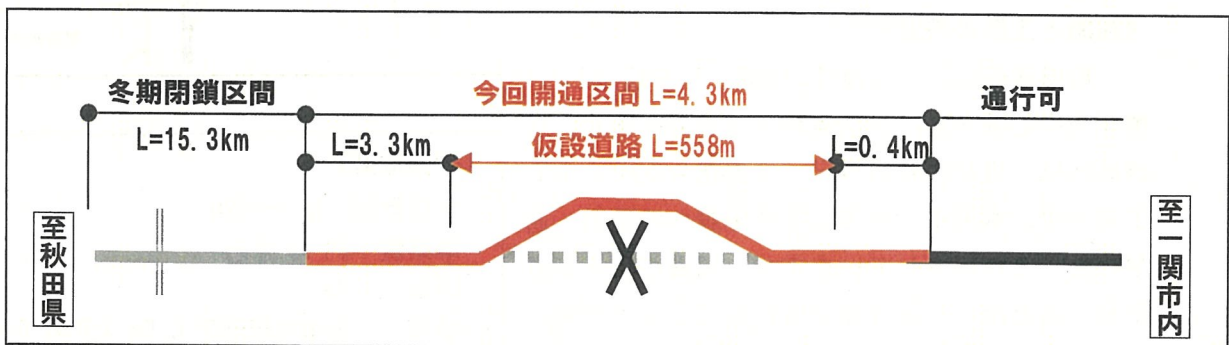
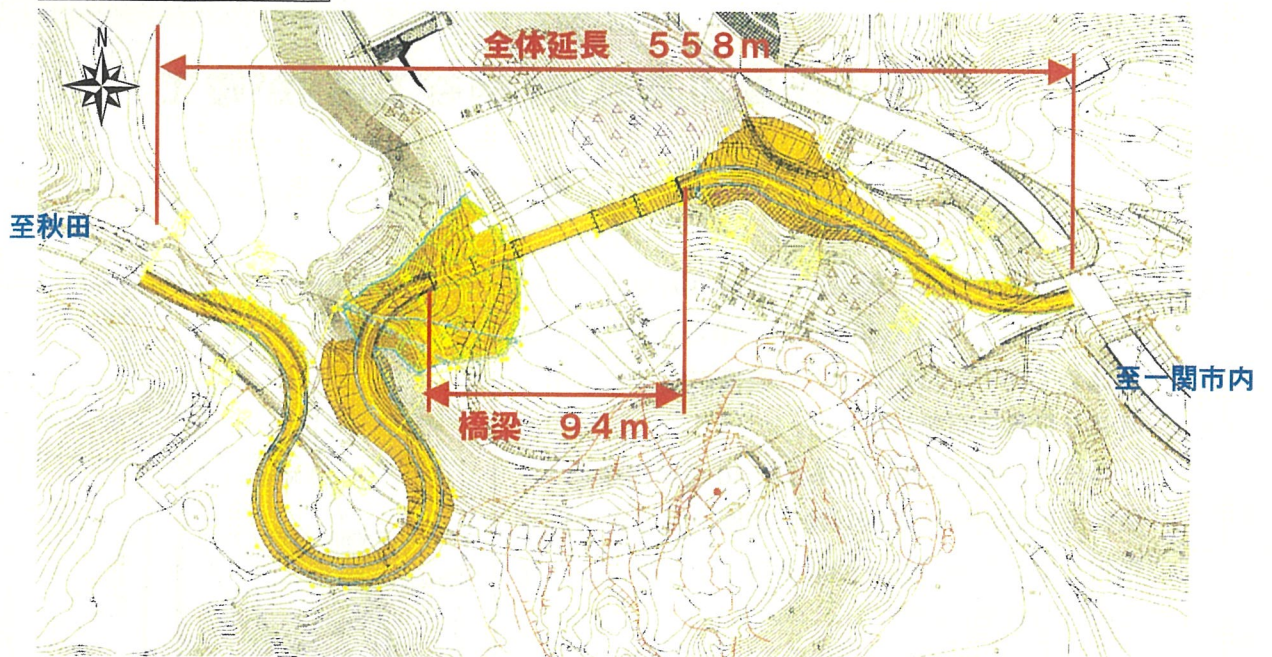
### 《開通当日の様子》



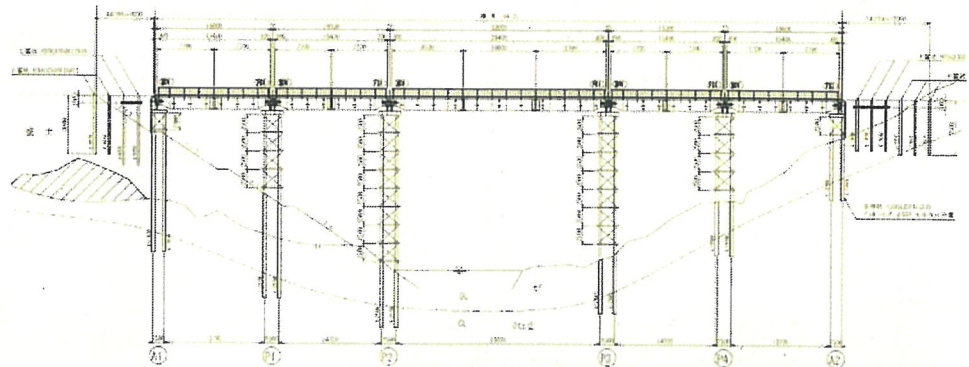
開通に先立ち、午前10時30分から報道機関への公開を行いました。その後、正午から一般車両の通行を開始し開通となりましたが、開通前には、約60台もの車両が並びました。また、開通後には、「ブナの森（旧本寺小学校祭時分校）」において「須川の自然を考える会」が中心となり、祝い餅が工事関係者などに振舞われました。



**祭時仮設道路概況図**



**橋梁一般図**



**橋梁概要**

- 上部工形式 : 5径間単純鋼鈹桁
- 下部工形式 : H鋼橋脚
- 支間割 : 16.0m@2+30.0m+16.0m@2
- 設計荷重 : B活荷重

**道路部概要**

- 幅員 : W=4.0(5.0)m
- 設計速度 : V=30km/h
- 最急勾配 : i=6%
- 最小半径 : R=30m

